

日本の成り立ちと倭の王権

	旧石器時代	縄文時代	弥生時代
時期	～1万2千年前ごろ	1万2千年前～紀元前4世紀ごろ	紀元前4世紀～紀元3世紀ごろ
遺跡	岩宿遺跡、野尻湖発掘	大森貝塚、三内丸山遺跡	登呂遺跡、吉野ヶ里遺跡
遺物	打製石器	磨製石器、縄文土器、竪穴住居	磨製石器、弥生土器、竪穴住居、青銅器、鉄器、高床倉庫
仕事	狩りや漁・採集	狩りや漁・採集が中心	稲作が広まる
社会	岩かげなどに住む、獲物を追って移住する	台地に住む、貧富の差が少ない社会	低地に定住、指導者が現れ身分の差が大きくなる、国の出現
信仰		自然信仰、土偶	豊作を神に祈る祭り

縄文時代・・・

縄目のような模様がつけられた縄文土器がつくられ、狩りや採集を中心に生活していた時代

◇日本列島の成立・・・

約1万年前に氷河時代が終わって海水面が上昇し、日本列島が成立した。

◇土器の製作・・・

日本列島が成立したころから土器がつくられるようになる。縄目の模様がみられる**縄文土器**が多い。

◇生活・・・

狩りや漁・採集が中心で、農耕・牧畜はあまり行われない。小さな集団で、竪穴住居に住んでいた。

◇道具・・・

縄文土器のほか、**磨製石器**を使用。まよけや豊かさを祈るために使われたと考えられる**土偶**が作られた。

◇遺跡・・・

貝塚（縄文時代の人々が食べ物のかすなどを捨てたあと）から、当時の道具や骨が見つかり、縄文時代の生活を知ることができる。青森県の**三内丸山遺跡**から、大きな建

弥生時代・・・

稲作が行われ、弥生土器が使われていた時代を弥生時代といい、紀元前4世紀ごろ～紀元3世紀ごろまで続いた。

◇稲作・・・

紀元前4世紀ごろ、大陸から稲作が伝えられる。稲作は、東日本まで急速に広まった。稲を蓄える**高床倉庫**が作られ、石包丁などの農具が使われた。

◇金属器・・・

稲作の伝来と同じころ、青銅器や鉄器も伝えられる。青銅器はおもに宝物として、鉄器は武器や工具として使われた。

◇土器・・・

縄文土器よりも模様が少なく、使い道に合わせてつくられた**弥生土器**がつくられるようになった。

◇生活・・・

水田の周りに竪穴住居を建て、村をつくっていった。集団の作業を指導する者が現れた。**吉野ヶ里遺跡**は、集落の周りがほりや柵で囲まれている。

国の出現

◇小さな国の出現・・・

飲料や用水などをめぐる争いがおこるようになり、豪族や王が支配する小さな国ができるようになった。

◇紀元前後の倭・・・

100あまりの国があり、中国に使いをおくる国もあったことが、中国の歴史書に記されている。

◇金印・・・

1世紀の半ば、奴国の王が漢（後漢）に使いをおくり、皇帝から「漢委（倭のこと）奴国王」と刻まれた金印を授けられた。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見されたものがこの金印であると考えられている。

◇「魏志倭人伝」からわかること・・・

①3世紀の倭には、**邪馬台国**という国があり、女王**卑弥呼**が30あまりの国を従えていた。身分の違いがあった。

②卑弥呼は中国の魏に使いをおくり、皇帝から親魏倭王の称号や金印・銅鏡などを授けられた。

古墳と大和政権（ヤマト王権）

◇古墳・・・

王や豪族の墓。円墳・方墳・**前方後円墳**などの形がある。**大仙（仁徳陵）古墳**は最大の古墳である。

◇大和政権（ヤマト王権）・・・

3世紀後半、大和（奈良県）を中心とする地域に成立した政府を**大和政権（ヤマト王権）**といい、氏と呼ばれる集団でまとまっていた豪族によって組織されていた。この地域には、巨大な前方後円墳が集中している。

◇大和政権（ヤマト王権）の発展・・・

5世紀には、東北南部から九州までの国を従えるようになった。大和政権（ヤマト王権）の王は、各地の王を従え、**大王**と呼ばれるようになった。

◇古墳文化・・・

古墳の周りや頂上には素焼きの**埴輪**が置かれ、墓の内部には、鏡・玉や鉄剣などが納められた。

大陸とのつながり

◇中国・・・

5世紀ごろから南朝と北朝の対立が続く（南北朝時代）。5世紀に大和政権の大王は、倭王としての地位と朝鮮南部の支配権を認めてもらおうとして、南朝にたびたび使いを送った。

◇朝鮮・・・

北部で高句麗が勢力をのびし、南部に**百濟**と新羅が成立。伽耶（加羅、任耶）地域の小国や百濟と結びついた大和政権は、高句麗や新羅と戦った。

◇渡来人・・・

朝鮮半島や中国から移り住んだ人々。須恵器の製法や高級な絹織物の技術、土木技術、漢字、儒教などを日本に伝えた。